

国刊 なほら スポ

70

クラシックバレエに手話

なほら

中高一貫の聖心学園(橿原市)の女子生徒3人が、手話を取り入れたダンスとして知られる「サインランゲージ(手話・ダンス)」に取り組んでいる。県内の中学・高校の部活動での手話ダンスは珍しいという、注目を集めよう。

平成15年創立の聖心学園は、13年の女子はエアロビクスが必修科目となっている。4年(高1)からはエアロビクスの授業がなくなるため生徒から継続を望む声が上ががり、18年度から部活動として「創作ダンス部」を立ち上げた。

創作ダンス部は島崎真梨奈顧問と山田房美副顧問、部員約40人が手話とヒップホップ、タップ、社交の4つのダンスとチャリティーダンスの練習に励んでいる。

手話ダンスを選んだのは、4年の中辻紬香さんと五條久美子さん、島岡彩奈さんの3人だ。

中辻さんと五條さんはクラシックバレエの経験があることから、3人でクラシックバレエの表現に手話のメッセージを取り入れた独自のスタイルの手話ダンスを行っている。

現在は、アンジェラ・アキさんの「手紙」と平原綾香さんの「ジュビター」がレパートリー。島岡さんが主に手話で歌詞の内容を伝える役割を担当し、中辻さんと五

聖心学園「創作ダンス部」



クラシックバレエを取り入れた手話ダンスに取り組む聖心学園の生徒たち ー橿原市

條さんが優雅なバレエを舞う。

月、水曜日の放課後の1時間と土曜日は2時間半を練習時間にあてており、3人は「歌詞の内容を見る人の心に届けられるような表現を心がけています」という。

昨春の部活動紹介を兼ねた新入生歓迎会で練習の成果を初披露し、昨年11月には修学旅行先のスペイン・マドリッドでも現地の高校生にパフォーマンスを披露した。島岡さんは「(スペインで)

多くの歓声や拍手をもらってうれしかった。ダンスの様子を携帯電話で熱心に動画撮影していた女子生徒もいて、やりがいがありました

たと振り返る。

3人は「今後も手話ダンスに磨きをかけ、福祉施設などで耳の不

自由な方々の前でも披露して楽しんでいただければ」と意気込んでいる。(西家尚彦)